

【森ハブ PF】ワーキング・グループ開催報告

【森ハブ PF】ワーキング・グループ（以下 WG という）の活動について、以下の通り報告します。

表 1 活動の概要

WG 名称	森林の生物多様性調査分析技術 WG	
運営責任者	氏 名	門 裕一
	所 属	日立建機株式会社
活動概要	名 称	第一回森林の生物多様性調査分析技術 WG ～生物多様性の調査分析技術を持つ企業の取り組みについて～
	年月日	2025 年 1 月 30 日
	場 所	オンライン会議

表 2 参加者

氏 名	所 属
氏 名 非公表	日立建機株式会社 新事業創生ユニット ビジネス開発室
	日立建機株式会社 新事業創生ユニット ビジネス開発室
	国際航業株式会社 事業統括本部 RS ソリューション部リモートセンシング G
	国際航業株式会社
	株式会社アルボナウト
	株式会社バイオーム取締役 COO
	株式会社バイオーム
	株式会社スペースシフト
	NEC ソリューションイノベータ株式会社
	株式会社つくば林業、NPO 法人樹木環境ネットワーク、NPO 法人農都会議
	一般社団法人日本森林技術協会 事業部 林業経営グループ
一般社団法人日本森林技術協会 事業部 森林保全第一グループ	
一般社団法人日本森林技術協会 事業部 森林保全第一グループ	
合計人数	13 人

表 3 議事次第及び協議内容等

議 事	協議内容等
1. ご挨拶	WG 担当の自己紹介：資料①参照
2. 森ハブとは	森ハブについての説明：資料②参照
3. 森林の生物多様性調査分析技術 WG について	WG についての説明： 森ハブ専用 HP 参照
4. 生物多様性調査分析技術をお持ちの企業紹介	技術をお持ちの 3 社を紹介 <ul style="list-style-type: none"> 国際航業株式会社：企業 HP 株式会社アルボナウト：企業 HP 株式会社バイオーム：企業 HP
5. 事例紹介（TNFD、OECM 対応等）・質疑応答	3 社の事業内容と事例紹介、質疑応答 <ul style="list-style-type: none"> 国際航業株式会社：資料③参照 調査する森林の規模により測定ツールは地上での計測、ドローン、航空機、衛星から最適なものを選択する。 株式会社アルボナウト：資料④参照

	<p>森林の生物多様性の指標として枯死木が扱われていることが興味深い。</p> <ul style="list-style-type: none"> 株式会社バイオーム：資料⑤参照 <p>企業の TNFD 対応や自然共生サイト認定の取組として、生物多様性の保全を目的とした林業の施業が行われている。</p> <p>参加者所属企業による TNFD レポートの例…「NEC TNFD レポート」：資料⑥参照。</p>
6. まとめ	<p>企業の ESG の取組などを背景に木材生産以外を目的とした林業の施業が行われており、今後もこうしたケースが増える可能性を感じた。次回は 2 月開催。</p>

参考：令和 6 年度（2025 年度）「森林の生物多様性調査分析技術 WG の活動計画」

【WG 名称】森林の生物多様性調査分析技術

【設置目的】社有林を持つ企業や、森林保全を行っている企業の TNFD レポート等にも影響する生物多様性の評価のための調査、分析に関する技術やソリューションを扱う WG である。

副次的にはなるが、評価の結果、森林の生物多様性を改善するような施業が増えることで、林業が活性化する等、林業業界にもプラスの影響を与えられる可能性を持っていると考える。

その可能性を大きくするためにも、生物多様性調査分析技術についての WG にて、企業の TNFD 対応を推進するきっかけやそれらの技術領域の活性化を行うとともに、OECM の推進として自然共生サイトへの登録等にもつなげていく。

【開催計画】

第一回：生物多様性の調査分析技術を持つ企業の取り組みについて…1 月下旬開催済

1. ご挨拶
2. 森ハブとは
3. 森林の生物多様性調査分析技術 WG について
4. 生物多様性調査分析技術をお持ちの企業紹介
5. 事例紹介（TNFD、自然共生サイト対応等）・質疑応答
6. まとめ

第二回：森ハブは生物多様性調査分析技術領域に貢献可能か…2 月下旬開催予定

1. ご挨拶
2. 令和 6 年度林業イノベーション現場実装シンポジウム結果共有
3. 議論：森ハブは生物多様性調査分析技術領域に貢献可能か
4. まとめ

第三回：WG の活動を通して林業業界に貢献できるか…3 月下旬開催予定

1. ご挨拶
2. 活動内容の振り返り
3. 議論：WG の活動を通して林業業界に貢献できるか
4. まとめ

以上